

所 信 表 明

令和3年9月

池田市長 瀧澤 智子

本日ここに、市長就任後最初の市議会定例会において、市政運営に対する私の所信を表明する機会をお与えいただいたことに、心より感謝を申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症につきましては、全国的に更なる感染拡大が進み、大阪府においては、今月に入り、一日あたりの感染者数が初めて3,000人を上回り、そして本市においても、これまでの感染者数の合計が1,600人を超えるなど、依然として猛威を振るっています。

このような中、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、り患された方々の一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

また、市民や事業者のみなさまには、感染拡大防止へのご協力にお礼を申し上げます。

そして、医療や福祉などの分野で、感染リスクを抱えながらも、最前線で私たちの生活を支えていただいているみなさまに対しまして、心からの敬意を表し、感謝を申し上げます。

このような事態、そして緊急事態宣言が発出される状況下で、

前市長の辞職に伴う先の市長選挙は執り行われました。

また、市民のみなさまには、前市長の辞職の発端にもなった、市役所へのサウナの設置や、百条委員会で明らかになった職員へのパワーハラスメントなどの一連の騒動により、多大なるご不安とご迷惑をおかけしてしまいました。

このような市政の混乱は、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の危機の中、市民生活をお守りするという行政の役割を脅かす、断じてあってはならないことでした。

そして、その責任の一端が私にあることも、承知しております。

だからこそ、私は、果たすべき責任について考え抜いた末に、この市政の混乱に終止符を打ち、市民のみなさまの、一層安全・安心な日常生活につながる池田市政を取り戻すために、市議会議員の一期目の半ばではありましたが、その職を辞し、池田市長へ立候補することを決意いたしました。

その結果、市民のみなさまの信託をいただき、第24代池田市長として、その重責を担うこととなり、身の引き締まる想いです。

新型コロナウイルスの感染拡大の収束は、未だ見通すことができず、私たちは、これまでにだれも経験したことのない事態に直

面しています。

私もまた、このコロナ禍において、子育てをしながらこのまちで暮らす市民の一人です。

この危機的な状況を乗り越え、そして、池田市を、だれもが将来に希望をもてるまちにするために、私は、当事者の一人としての視点を持ちながら、市民のみなさまとの対話を重ね、前例や慣習にとらわれることなくまちづくりを推進し、全力で市民生活を守っていく所存です。

そして、人・まち・未来を、市民のみなさまと共に育む「共育のまち池田」を創ってまいります。

この「共育のまち池田」を実現するためには、最優先の課題である新型コロナウイルス感染症対策の充実により、市民のみなさまの命と健康をお守りすることに加えて、「人を育てる」、「まちを育てる」そして「未来を育てる」という3つの理念を施策の柱に据えたまちづくりが必要と考えております。

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策の充実についてです。

まず、新型コロナワクチンの接種の推進につきましては、接種

を希望される市民のみなさまが、不安なくスムーズに接種を完了できるように、国から供給されるワクチンの量に応じて、新たな集団接種会場の開設や、受験生などを対象とした優先接種枠の創設などを含め、その体制の充実に向けた検討を進めてまいります。

また、現下の状況においては、さまざまな立場の方が、さまざまな形で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けています。そのため、時機を逸することなく、必要とされる支援策を講じてまいります。

次に、「人を育てる」です。

昨今の社会状況の変化は目まぐるしく、今、学校などに通っている子どもたちが社会に出る、そんな近い将来のことさえ、想像することは困難です。このような中、池田の子どもたちが、どんな時代を迎えようとも、個性を輝かせ、そしてたくましく活躍できるように、教育環境を整えてまいります。

まず、ICT教育については、GIGAスクール構想に基づく取組により、本市における環境の整備は、一定の段階にまで進みましたが、オンラインを活用した学習指導の需要への対応や、よ

り充実したプログラミング教育の実践のために、全小・中・義務教育学校の情報教育環境をさらに充実させます。

同時に、これらの学校に対しては、教員のICT活用指導力の向上のための研修などを含め、その環境を適切に活用するためのサポートを行い、現在のコロナ禍、そして今後起こり得る教育の危機にも対応できる基盤を整えることで、子どもたちの学びの機会をしっかりと確保してまいります。なお、ICT教育の推進に伴って懸念される、子どもたちの視力や書く力の低下については、その影響を長期的にフォローしてまいります。

加えて、心の教育についてですが、変化の激しい社会に対応するためには、子どもたちが自ら課題を発見し、そして主体的に解決する力が求められます。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、これまでと異なる学校生活が続き、子どもたち同士の関わりが薄れる中、他者を思いやる心を育む機会の重要性も、一層高まっています。

これらの状況を踏まえ、課題解決力や社会性、そして豊かな人間性の基盤となる心を育むべく、心の教育の深化を図ってまいります。

また、学校施設の整備に関しては、近年の猛暑を考慮すると、全小・中・義務教育学校の体育館は、教育の場としても、緊急時の避難所としても、その環境改善は急務です。これを踏まえて、まずは、これらの学校の体育館への空調設備の設置を、令和4年度末までに完了させるとともに、老朽化した施設の改修や長寿命化などを進めることで、安全・安心な教育環境を整備してまいります。

次に、子どもたちを取り巻く課題としては、ヤングケアラーや子どもの貧困などがあります。このような幅広い分野にまたがる課題については、まずは、関係機関との連携により、その実態の把握を進め、政策を円滑に実現するための組織整備も含めて、必要となる支援体制を構築してまいります。

続いて、「まちを育てる」です。

全国的な少子高齢化は、本市でも例外なく進行しており、その影響は、各地域内のつながりの希薄化や、担い手の不足につながっています。その一方で、多様化・複雑化する地域課題の解決にあたっては、地域のみなさまの参画が、これまで以上に重要とな

っています。

今後は、地域のみなさまとの対話のもと、地域の活性化や担い手の発掘を図るとともに、本市を含めた多様な主体との連携と協働によって課題解決ができる環境づくりを、一層進めてまいります。

地域分権制度に関しましては、制度の創設から15年目を迎え、地域コミュニティ推進協議会における地域代表制の担保や、参加者の高齢化などの課題が浮かび上がってきており、今後の在り方についての検討が必要であると考えております。

しかしながら、独断専行での改変は、混乱を招くのみです。よって、事業の提案権という制度の根幹は維持しつつ、行政の地域アドバイザーとしての機能をさらに拡充することで、地域と本市が、これまで以上に協力し、連携できる体制を構築するとともに、地域のみなさまのご意見を伺い、ご理解をいただきながら、より良い制度に向けた検討を進めてまいります。

また、活発な地域活動のためには、高齢者をはじめとするあらゆる世代の方々が、心身ともに健康で、そして精神的にも満たさ

れながら、生涯にわたってご活躍いただける環境が必要です。

そのためには、健康診断の受診機会の確保と充実をはじめとする各種健康施策を推し進めるとともに、地域における居場所づくりによって豊かな地域交流を形成し、社会全体でお互いに見守り、育む環境を整えることで、その暮らしを支えてまいります。

次に、昨今の災害の頻発化・激甚化や、感染症の世界的流行、そして、これらに複合して発生し得る凶悪犯罪や、日常的にも発生する特殊詐欺に鑑みると、強さとしなやかさをもった安全・安心なまちは、これまで以上に重視されています。

これに応えるためには、池田市国土強^{じん}靱化地域計画に位置付けた各取組を緩みなく進め、また、今後の社会情勢の変動に伴う危機にも即応できるよう、危機管理体制の拡充や、職員の危機管理能力の向上に努めるとともに、関係機関との連携を深めることで、防災力、防犯力、そして消防力の強化を図ってまいります。

また、気候変動などの課題に対しては、自然環境の持つ多様な機能を活用した対応を進めるとともに、五月山や猪名川に代表される豊かな自然環境に関しては、次世代にその恵みを残すべく、

保全に取り組み、みどりを活かした住環境づくりを推進します。

加えて、安全・安心かつ、快適に暮らせるまちには、だれもが円滑に移動できる公共交通が必要です。2025年に開催される「大阪・関西万博」が、「人類課題の解決の場」という万博の理念を実践する場であることも踏まえ、この好機をとらえて、今後の本市の公共交通を支える新たな移動手段の創出に取り組んでまいります。

そして、「未来を育てる」です。

人々の働き方や価値観、そして世帯構成の多様化が進み、これらが、家庭や地域社会などの、子どもたちを取り巻く環境に変化をもたらしている現状を踏まえると、保育所や幼稚園、そして認定こども園をはじめとする子育て支援施策には、その一層の充実が求められています。

こうした状況に応えるためには、子どもたちの生涯にわたっての生きる力の基礎を培う、就学前教育の一層の推進に取り組み、また、保育を必要とするすべての方に対して保育を提供できる体制の整備と、その質の更なる向上をめざします。

そして、これらの子育て支援施策については、私自身の、子育ての当事者としての目線を活かしながら、市民のみなさまの声に寄り添って課題の解決を図り、子どもたちの健やかな成長を実現してまいります。

次に、本市の中心市街地としての機能を担う、池田駅と石橋阪大前駅を中心とする両地域と、豊富な魅力を持ちながらも、活性化への決め手を欠いていた細河地域については、それぞれの地域の特性を活かした、新たな在り方を考えてまいります。

まず、池田駅周辺については、多様なステークホルダーとの共創により、「歩きたくなるまちなか」を実現するためのビジョンを描きます。

加えて、この機会は、五月山動物園や、カップヌードルミュージアム 大阪池田といった、本市の観光資源のあふれる魅力を発信するチャンスとして、従前からの課題である回遊性の向上につなげていくとともに、駅前の喫煙所の移設や、駅前広場のバリアフリー化などに関しても、関係者のみなさまと改めて議論をする場として、活用いたします。

石橋阪大前駅周辺については、市民のみなさまや観光客などが多世代にわたって集い、交流することができるまちづくりを進めるとともに、長期的な課題である再開発に向けては、これまでの経緯を十分に踏まえ、地域のみなさまのご意見を拝聴することから、着手してまいります。

続いて、細河地域については、歴史的な背景を有する植木産業や農業を中心に据えつつ、I o T技術や再生可能エネルギーの活用といった、地域の魅力を高める新たな要素を絡めることで、地域を活性化させ、持続可能な地域づくりを進めます。

さらに、農福連携の取組を進めることで、障がいのある方の社会参加の機会の充実のほか、担い手の不足や高齢化が進む農業分野の働き手の確保につなげます。

加えて、このような新たな取組については、同地域における好事例をモデルとして、本市内の各地域へ横展開することも見据えながら、その推進に注力してまいります。

また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人々がスポーツや歴史・文化・芸術に触れる機会は、大幅に制限されてい

ます。一方で、この状況は、これらが、まちのにぎわいの重要な要素であると同時に、人々に、楽しみや喜び、そして感動を与え、人生を豊かにするものであるという意義を、再認識するきっかけにもなりました。

このような、スポーツや歴史・文化・芸術を、従来どおりの手法で振興することが叶わない状況下においても、新しい生活様式にもなじんだ形でこれらに触れることで、さらにまちに愛着が持てるよう、その新たな手法を模索してまいります。

加えて、このような本市の魅力は、昨今関心が高まっている、ワーケーション等の取組として、コロナ禍に即した「新たな旅のスタイル」の実践を進める中で、その発信を促進してまいります。

そして、これまで述べました施策を実現するとともに、本市の行財政体質そのものを、次世代に負担を先送りしない持続可能なものへと転換していくために、不断の事業見直しを行うとともに、各種の改革を進めます。

まず、市長の退職金は0円とし、市長の給与月額を、その30%をカットいたします。

そして、今後は、過去に建設された多くの公共施設が、経年により、順次更新時期を迎えることとなることから、人口減少をはじめとする社会状況の変化に照らしながら、その適正な在り方を見出していかなければなりません。

この状況に対応するためにも、市民のみなさまとの対話を重ねながら、公共施設の規模、必要数そして機能を、これらに係るコスト等を踏まえて見直すとともに、新たな活用についての検討を進め、これからの時代にふさわしい形への再編に着手してまいります。

次に、行政のデジタル化についてですが、新型コロナウイルスの感染拡大に加え、今後見込まれる人口減少、そして人々の価値観やライフスタイルの多様化に対応しながら、効果的・効率的な行政運営を進めるためには、その推進は必要不可欠です。

これらを踏まえ、行政サービスのオンライン化や、庁内業務のデジタル化などに取り組み、市民をはじめとするみなさまの利便性の向上や、業務の効率化を図ってまいります。

そして、職員の働く環境の改善についてです。

冒頭に触れました一連の騒動は、市民のみなさまからの信頼を失墜させただけでなく、最前線で市民のみなさまと接し、サービスを提供する職員のモチベーションをも、大きく損なってしまいました。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、仕事と、育児や介護などの職員それぞれの生活との両立にも、新たな在り方が求められています。

そんな中、私は、職員の声をしっかりと聴きながら、一人一人がその力を発揮できる、働きやすい職場づくりを進め、テレワークや時差出勤といった、感染症対策のみならず、多様な生活スタイルに応じた勤務につながる取組に関しては、その更なる深化を図ることで、職員とそのご家族の健康を守るとともに、ワーク・ライフ・バランスを実現させ、そして、本市の行政サービスをさらに向上させてまいります。

最後に、第7次総合計画の策定について、申し上げます。

本市は、現在、令和5年度からの10年間でめざすべきまちの将来像を描く、第7次総合計画の策定を進めています。

この10年間という、私の任期を超える長期的なまちづくりのビジョンを描くにあたっては、私は、市民のみなさまとの対話を何よりも大切にするとともに、託していただく想いを、総合計画としての的確にとりまとめていくことをお約束します。

そして、今後4年間の任期では、その10年後のさらに先の時代を見据えた上で、あるべきまちの将来像の実現に向け、各種施策を展開してまいります。

以上、市政運営の重責を担うにあたっての私の所信を述べさせていただきます。

「経験不足」などのお声も、多く頂戴しております。また、大阪府内で初の女性市長ということで、ご注目とご期待をいただいている部分もあるかもしれません。

しかし、私は、このような肩書などにとらわれることなく、これまでの、民間企業での勤務、市議会議員としての経験、そして市民としての日々の生活の実感も含めて、持てるすべてを活かしながら、市長としての責務を果たし、そして、今後の池田市の発展とともに、私自身も成長してまいります。

議員各位におかれましても、格別のご支援とご理解を賜りますよう
ようお願い申し上げます。

最後に、本議会に提案しております、諸議案に対しまして、議員
各位の慎重なご審議を賜り、各般の施策が実現できますことを
念願いたしまして、私の所信表明といたします。

令和3年9月21日

池田市長 瀧澤 智子